



静脩

2005年10月

The Kyoto University Library Network Bulletin

Vol. 42. No. 1

京都大学図書館機構発足への期待

京都大学総長 尾池 和 夫

大学の図書館は、大学の知的シンボルであり、大学の文化バロメータでもあります。京都大学の図書館も、知の創造場所として、また、知の宝庫として、さらに、知の継承場所としての重要な使命を担い、大学の歴史とともに図書館の歴史も作られてきました。この歴史の流れの中において、図書館は、教育支援と研究支援が本来の一番大きな課題でしたが、利用者のニーズにどう応えるのかを常に検討いただき実現していただきたいと希望いたします。

とりわけ、学生に対してのサービス向上について、図書館においても全学を挙げて取り組んでいただきたいと考えております。また、図書館そのものについても、紙媒体資料を使用した従来型の図書館サービスだけでなく、インターネットの活用とIT技術を使用した情報提供サービスを融合させたハイブリッド型の図書館サービスの展開に京都大学の図書館が連携して取り

組み実現していただきたいと期待しております。

京都大学は、幾たびか変革の時期を迎え乗り越えてきております。今日また、新たな一つの波に直面しています。先人達が難局を克服し、今日の京都大学を作り上げたように、勇気をもって打開していく使命を、今、京都大学にいる私たちが担っています。京都大学の図書館も機構という新たな枠組みの中で、教育、研究、社会への貢献の任を果たしていただけることを期待いたします。



(おいけ かずお)

京都大学図書館機構のウェブサイトを更新しました。

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

従来の附属図書館ホームページのURLは変更になりました。

<http://www3.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学図書館機構の発足にあたって

京都大学図書館機構長 大西 有三

京都大学図書館機構が2005年4月1日に発足しました。

図書館機構という組織があるのは、京都大学のみです。では、京都大学図書館機構はどんな組織でしょうか。

機構のパンフレットには、機構が「部局図書館等の独自性を維持した、ネットワーク型」の組織であり、その業務は次の3点に集約されると記載されています。

- ・ 全学共同事業の実施に関する、附属図書館および部局図書館等間における連携及び調整
- ・ 図書館機能を有しない部局への支援
- ・ 図書館機能に係る情報技術に関する、情報環境機構との調整

しかし、これでは関係者以外には内容が伝わりにくいので、少し具体的に説明を加えたいと思います。

そもそも図書館とは何なのでしょう。基本的には、書物あるいは音楽や映像などのソフトを収蔵し、ニーズに応じてそれらを資料として利用者に閲覧・貸出などのサービスを提供する機関です。また、図書館は主に次のような機能を持っています。

(1) 資料の収集

図書、新聞、雑誌のみならず、CDなどのマルチメディアなどの収集・整理

(2) 資料の整理

収集資料の分類番号等や検索用の整理

(3) 資料の保存

場所の確保と各種資料の材質に応じた適切な保存。また補修、複製物（電子的）作成

(4) 資料の提供

図書館の最大の業務は資料提供。貸出、閲覧、情報検索、複写などのサービス提供

これらの他に、図書館利用の広報活動や図書館の利用のガイダンス開催も欠かせません。

京都大学には50を超える図書館、図書室が各所に存在します。従来、これらの図書館群は、各部局の元で、独立して運営されてきました。また、附属図書館やその分館は、全学のためにサービスを行っており、これらの図書館群の結びつきはそれほど強いものではなく、これは京都大学の特徴といえます。しかし、近年の社会情勢や教職員・学生の要望、また外部評価による指摘などは、図書館のあり方に関してある種の変化を求めています。また、学内的には図書館群に対する要望、指摘、提案などは、長年にわたり数多く示されてきましたが、協議会が設立されるまでは全学的に対応する仕組みがありませんでした。例を挙げれば、開館・閉館の時間、休館日など部局図書館の間の不整合、部局間相互利用の不便さ、サービス内容のばらつき、部局図書館（室）の情報交換不足、図書館員と教員のコミュニケーション不足、など多々あります。

大学の図書館は、本来、教育支援と研究支援を目的として存在しております。学生や教職員（顧客に当たる）に対するサービス向上は、最も重視される事項です。近年のインターネットやIT技術の発展は、サービスの内容の変革を迫っております。従来型の紙媒体を利用したサービスとIT技術による情報提供サービスとをハイブリッド融合させたサービスを充実させる必要があります。

図書館機構構想は、京大に数多くある図書館群は、上記の基本的な機能を発揮し、十分なサービスを提供できているのでしょうかと改めて原点に返って問い直して出てきたものです。

京都大学図書館機構の中核をなしているのは、

図書館協議会です。構成員である協議員は全学の各部局から選任された教員たちが中心です。協議会は、開学以来続いてきた附属図書館商議会を改組して、機構に先立つ1年前の昨年4月に発足しました。協議員は、各部局で抱える問題を協議会に持ち込み解決を図ることになります。また、電子ジャーナルなどの全学に関わる問題を共同で検討し、答えを出す役割を担っております。

こうして、協議会は部局間の意思疎通を円滑にする役割を果たしますが、課題として部局の図書館職員とのコミュニケーション、また協議会の事務組織を附属図書館が担うことに対する共通認識に関しては、まだ検討の余地が残っているといわざるを得ないでしょう。

附属図書館を含めて部局の図書館職員間のコミュニケーションシステムは、十分機能しているとは言えない状況です。教員の意見は、協議員を通して協議会に上げられますが、職員の意見は、従来の枠組みで附属図書館事務局指導型になっています。図書館職員定例の会合がありますが、活発な意見交換がなされているとはいえません。また、部局によって協議員、教員、職員相互の連絡が十分ではないところもあるようです。これからは、部局の図書館職員間のミスコミュニケーションを減らす方策を真剣に考えるべきでしょう。従前と異なり、部局単独では解決しにくい問題もすくなく出てきています。せっかく機構という全学組織が設立されたのですから、有効に活用するという意識を持つことが今後の運営に役立つのではないのでしょうか。

機構としては現在、下記のような課題を掲げて真剣に取り組もうとしております。

(1) 全学共同事業関係

- ・学内蔵書の効果的かつ円滑な共同利用体制の整備
- ・合理的な共同業務処理体制の確立

選書調整（特に高額資料）、発注・検収、
目録作成、レファレンス、デリバリー、
書誌作成（Internet 資源を含む）

等の共同処理体制の可能性

(2) 図書館機能未整備の部局への対応

- ・図書館機能を単独で持てない部局へのサービス体制の整備

スペース、スタッフ、経費等の面で不利な立場の解消

(3) 情報技術への対応（情報環境機構との連携）

- ・ネットワーク機能の充実
- ・情報伝達の高速化
- ・リスク・コミュニケーションへの対応
- ・情報システムのリファイン

(4) 資料の整備とサービスの充実

- ・必要な学術情報の入手体制の確立
 - 学部学生用資料の整備
 - 図書、雑誌、AV資料、e-bookなど
 - ・研究用資料の整備（教員、大学院生向け）
 - 電子ジャーナル・DBの安定的な利用・活用、理工学系外国雑誌センター館の維持、高額資料の整備
 - 共同利用体制の整備
- #### (5) 人材の育成・職員能力の向上
- ・図書館（室）のマネジメント…利用者の利便性・満足度向上
 - ・図書系職員の充実
- #### (6) 必要財源の確保
- ・図書館情報基盤の整備
 - 電子ジャーナル、遡及入力、蔵書整備、業務の集中処理、アウトソーシング など

これらの内容について、教職員や学生の方々からのご意見を歓迎いたします。問題山積みの状態ですが、考えているだけでは事態の改善につながりません。皆様のサポートをよろしくお願いいたします。

（おおにし ゆうぞう）

京都大学図書館機構の発足に寄せて

事務改革・社会連携・渉外(東京)担当理事兼副学長 本間 政雄

2001年1月、旧文部省と旧科学技術庁が統合し、文部科学省が発足した。旧文部省で大臣官房総務審議官として教育改革、政策調整を担当していた私は、両省庁の統合を機に、京都大学事務局長として転出することになった。国立大学の事務局長として仕事をするのは初めてではなく、1997年から2年間横浜国立大学で勤務した経験があるので、国立大学の改革がどうあるべきかについてそれなりの夢を描いていた。私の夢は、京都大学を世界のトップ・クラスの大学にひけをとらない水準に引き上げる基盤を整備することであった。学生を教え、導き、育て、これまで碩学が営々と積み上げてきた学問を継承し、発展させるのは教員の仕事である。事務局長としての私の役割、責任は、そういう使命を担う教員が思う存分力を発揮できるよう、施設や設備などの物的インフラを整備し、研究費を確保し、財務や人事制度を改善していくことである。

図書館は、いかなる大学にあっても大学の中心である。図書館を見れば、図書館で学ぶ学生や教員を見れば、図書館で働く職員の表情を見れば、その大学の教育研究の質はおおよそ分かる。

私は、ロンドン大学(LSE)の大学院で2年間勉強し、パリにある経済協力開発機構(OECD)で国際公務員として2年、さらに在仏日本大使館でユネスコ担当副常駐代表として3年間働いた。その後も本省国際学術課、研究機関課、国際企画課などでの仕事を通じて欧米の一流大学を訪問する機会に恵まれたし、京大に来てからも京大海外フォーラムに参加したり、自ら企画を立てて中国、米国、欧州の大学を見て回った。もちろん、国内の大学も国公立を問わず数多く見て回っている。どの大学にしる、大学を訪問するとまず図書館を見せていただくことをお願いし、案内していただ

いた。そういう経験から、図書館を見れば大学の質が分かると考えるようになったのである。

一流大学の図書館では、責任者が図書館の役割と未来像を自信を持って説明する。私が会った図書館の専門職員は専門性が高く、たいていPh.DかMAなどの学位をもち、聞いてみると大学で図書館学や書誌学などの講義を受け持っているという。電子検索や電子ジャーナルの導入が計画性を持って進められている。AVメディアが豊富である。ゆったりとした書籍収納家具、格調高い読書机、革張りの椅子、抑えの効いた照明、落ち着きを与える絵画などじっくりと学問に集中できる環境が整っている。篤志家からそっくり図書館を寄付してもらったケースも少なくないようだ。

京大ではどうであろうか。未来まで含めて図書館の役割についての全学的な共通理解は必ずしも明確ではないようだし、その故か図書館に対する資源投入計画も策定されていない。個々の例外はあるにしても、図書館職員の専門性は概して教員が期待するような水準には達しておらず、欧米に見られるような教員が大学図書館職員に払う敬意や信頼感は感じられない。

図書館機構が発足したが、私はこの機構の役割は、京大全体としての図書館ビジョンの確立、それに従った整備計画・資源投入計画の策定、全学に対する説明、この3点にあると思う。他にも機能はあると思うが、それらは枝葉に過ぎない。機構長には強い指導力を発揮していただき、偏狭な部局中心主義を打ち破って世界トップ・クラスの京大を支えるにふさわしい図書館システムの構築に全力を挙げていただくよう期待したいし、図書館職員はもちろん部局長にも強力な支援をお願いしたいと思う。

(ほんま まさお)

京都大学図書館機構とは

・ 図書館機構とは？ - 図書館機構の課題 -

創設以来107年の歴史を有する京都大学には、京都大学の発展に伴い、現在、附属図書館・本館以外に大小50余の部局図書館・室が設置されています。

それぞれの図書館・室は、昭和41(1966)年の「京都大学附属図書館報告書」(京都大学図書館改善検討委員会報告)において確認された「調整された分散主義」の原則のもと、それぞれの部局の予算により、それぞれの部局図書館・室の運営委員会により独自に運営されてきました。

ところが、近年、利用者の声として図書館に要望される事項として、「個々の図書館・室で解決を図れる要望」以外に、「複数の図書館・室や全学の図書館が協力しないと解決できない要望」が増えてきています。

また、電子ジャーナルやデータベースの購読に関する経費負担など、個々の図書館・室では解決を図れない課題や複数の部局図書館・室間の調整が必要な課題が増加してきました。

とりわけ、近年の電子ジャーナル購読に係わる調整や全学の大規模遡及入力事業、また、図書系職員の資質向上に関する課題を解決する必要性が

増大しています。

さらに、近年においては、図書館機能を有しない部局または図書館機能を単独で有することが困難な部局が増えてきています。

これらの共通の課題を整理すると

- ・ 必要な学術情報の入手体制の確立
学部学生用資料整備
研究用資料整備(教員、大学院生向け)
- ・ 学内の学術情報の効果的かつ円滑な共同利用体制の整備
- ・ 合理的な共同業務処理体制の確立
- ・ 図書館機能を単独で持てない部局へのサポート体制の整備
- ・ 図書系職員の充実
- ・ 必要財源の確保

にまとめられます。

これらの、共通する課題解決のための総合的・合理的な全学協調体制として、平成17年4月に「京都大学図書館機構」が発足しました。

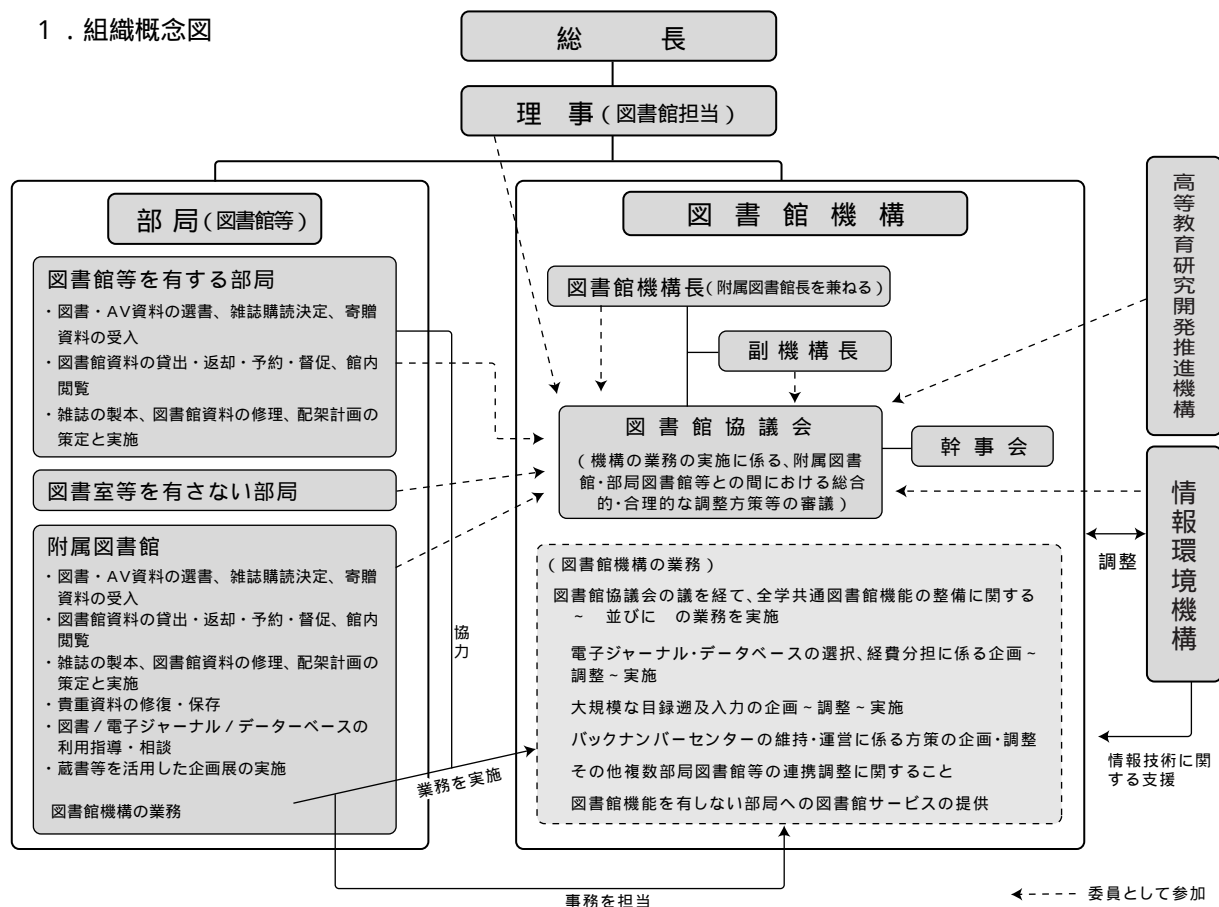
図書館機構銘板除幕式
(附属図書館玄関にて)



(右から) 本間理事、大西図書館機構長、
尾池総長、大林附属図書館事務部長

. 図書館機構の構成

1. 組織概念図



2. 組織と構成

図書館協議会

議長 = 図書館機構長(兼:附属図書館長)

協議員 = 理事(図書館担当)、図書館機構副機構長、宇治分館長、部局選出の協議員、附属図書館事務部長、その他協議会が必要と認めた教員で構成

幹事会 = 理事(図書館担当)、図書館機構長、図書館機構副機構長、宇治分館長、特別委員会委員長、附属図書館事務部長、その他機構長が必要と認めた者で構成

特別委員会 = 必要に応じて設置

理事(図書館担当事務)

丸山正樹

(平成17年10月 -)

機構長

大西有三

(平成17年4月 -) *1

副機構長

森棟公夫

(平成17年4月 -)

*1: 附属図書館長を兼ねる

. 図書館機構の事業

事業名	計画内容
A .サービス	
学内デリバリー・サービス	部局間及び吉田、桂、宇治の3キャンパス間で、資料のデリバリー・サービス体制の整備を図る。
B .蔵書・目録	
学部学生用図書	教育実施体制等に関する重点目標として学生用図書の整備拡充に努め、学習図書館機能を十分に果たせるよう少なくとも学生1人当たり1冊(現在は0.5冊)を目途とし、購入経費を要求する。選書にあたってはバランスを考慮しつつも、計画的に分野ごとに蔵書構成の補強を図る。
大型図書資料	部局単独で購入することが困難で、かつ共同利用にふさわしいコレクションを整備する。
電子ジャーナル	1. 研究実施体制整備の重点目標として電子ジャーナルを大学全体の基盤的資料として整備し、本学の研究者が最新の情報をいち早く入手できるようにする。 2. 平成18年度導入計画並びに安定的提供を可能にする経費負担方式を策定する。 3. 認証サーバによる、電子ジャーナルの利用方式を確定し、運用が行えるよう体制を整備する。
データベース	1. 研究実施体制整備の重点目標としてデータベースを大学全体の基盤的資料として整備し、本学の研究者が最新の情報をいち早く入手できるようにする。 2. 平成18年度導入計画並びに安定的提供を可能にする経費負担方式を策定する。
理工学系外国雑誌センター館	研究支援体制の整備の一環として理工学分野の学術雑誌の体系的収集と情報提供に努め、我が国における学術情報流通拠点としての役割を担う。
バック・ナンバー・センター	全学の雑誌の保存計画大綱を策定し、収納効率と利便性の調和を図る。
遡及入力	1. 国立情報学研究所の遡及入力事業に参加し、韓国語資料、アラビア文字資料、人文・社会科学系資料の遡及入力を進める。 2. 全学遡及入力実施6カ年計画(平成15年立案)に従い、部局図書室と協力して全学の遡及入力(第3年次)計画達成に努める。
C .マネジメント・施設・設備	
公開事業	図書館機構の課題である、学術情報基盤整備、電子ジャーナル・データベースの財政基盤の確立などの問題を集集し、理解を図ると共に、京都大学の所有する学術情報の公開展示を行い、社会貢献も図る。
組 織	全学図書館システム構想の検討を行う。
職員の採用・育成・研修	1. 図書館職員の資質向上のために、長・中期及び短期の研修スケジュールを立案する。 2. 全学の人事制度改革にあわせた、図書専門職制度を立案する。

京都大学の電子ジャーナル — 図書館機構に望む —

京都大学大学院工学研究科 近藤 輝幸

先日、工学研究科化学系図書委員長の大嶋正裕教授と附属図書館情報サービス課の柁川俊明図書館専門員から、附属図書館報「静脩」に電子ジャーナルの問題点を提起する原稿を執筆する様、依頼を受けた。おそらく、私の図書委員歴が長いからだと思う（平成10年4月～）。物書きは私の最も不得手とするところなので、読者には一研究者の独り言として眺めて頂ければ幸いである。

近年の急速な情報化に対応し、平成16年現在、京都大学では約9,000タイトルの雑誌が電子ジャーナルで閲覧可能である。京都大学の電子ジャーナル導入は、平成10年のエルゼビア社の「SD21」というプログラムの試行的導入に始まったと記憶している。しかし、当時の説明会において、エルゼビア社が提示した京都大学の契約予定額は、到底納得できるものではなかった。このように電子ジャーナルの導入は前途多難であったが、当時の附属図書館商議会ならびに関係部局の努力により現在の電子ジャーナルシステムに至った。しかし、現在の電子ジャーナルシステムにもいくつかの重大な問題がある。それらは、「高騰を続ける電子ジャーナル経費の負担方法」、「電子ジャーナルの不正使用（主に一括ダウンロード）による学会、出版社からのアクセス遮断措置」、および「電子ジャーナルと冊子体（紙雑誌）の共存」の三点に集約される。

平成16年度の電子ジャーナル全学経費は約5,700万円であったが、平成17年度は約9,600万円に激増する。私は、工学研究科・工学部図書委員会において、その理由について質問したが、図書掛長からの回答は「タイトル数の増加

ではなく、契約金額の高騰による。」というものであった。不思議なことに、工学研究科・工学部負担経費は平成16年度約670万、17年度約745万でありあまり変化がない様に見える。しかしこれは、平成17年度の電子ジャーナル全学経費の支払に、新たに全学共通経費から約4,250万円が支出されることによる（約4,000万円を要求中）。また、現在のエルゼビア社のフリーダムコレクション契約（エルゼビア社発行の全雑誌が閲覧可能）では、冊子体を中止しても契約総額は変わらないので、冊子体減額は電子ジャーナルの増額分として請求される。

結果、平成16年度は、電子ジャーナル増額分として約1,480万円をエルゼビア社に余計に支払った。平成17年度から工学研究科・工学部図書委員会電子ジャーナル・データベースWGが発足し、平成18年度以降の電子ジャーナル・データベースの経費負担方法について、全学負担による部分と利用者認証システム導入による利用実績を基にした利用者（受益者）負担の組み合わせによる方法を検討することになった。私もこのWG委員の一人であるが、安易な利用者（受益者）負担制度の導入は、教員が学生・院生に対し、「運営費交付金が足りないので、電子ジャーナル・データベースの使用を極力控えなさい」と教育（？）する貧困な結果に繋がるのでは？と危惧する。本来、電子ジャーナルやデータベースは、京都大学のインフラとして整備されるべきものではないか？

もちろん使用者サイドにも問題がある。最近では、7月14日にAIP（American Institute of Physics）サイト提供のASCE（The American Society of Civil Engineers）電子ジャーナルが

ら、一般的な利用範囲をこえる数のダウンロードが連続してシステムティックに行われた（1時間に連続して International Journal of Geomechanics から127論文、Journal of Geotechnical and Geoenvironmental Engineering から88論文が一括ダウンロードされた）ため、KUINS- プロキシサーバ4台中の1台（IPアドレス130.54.130.228）を經由したAIPサイトへのアクセスが遮断された（エルゼビア社の良いところは、この遮断措置が無い）。現状では、KUINS のログは通信の秘密保護のため法的な根拠がない限りモニタリングできないとの理由で、アクセスログによる利用実態の把握は困難であるという。従って、附属図書館は、学会・出版社に対し、調査報告義務を果たせない状況にあるが、これは京都大学として正しい（恥ず

かしくない）姿なのだろうか？また、視点を変えれば、この不正使用行為は、京都大学に所属する多くの研究者に多大な損害を与えている。多発する不正使用問題への対応策について、「図書館機構」は早急に検討し、研究者が納得できる回答を提示してもらいたい。

最後に、電子ジャーナルは安全なのだろうか？もし予告無く電子ジャーナルを提供している出版社が倒産、あるいはサイバーテロにより電子ジャーナルシステムが、突然、崩壊した場合の対応策はあるのだろうか？「京都大学は冊子体（紙雑誌）を全て止めて、電子ジャーナルのみとする様な大学ではない。京都大学で冊子体が必ず一部あるというのが大前提である。」という考え方に、私は強く賛同する。

（こんどう てるゆき）

長尾前総長揮毫による額をいただく

長尾前総長揮毫による額は、附属図書館1階吹き抜けにある階段の2階側壁に掲げている。



額には、「垂輝映千春」（輝を垂れて千春を映さんとす）（ヒカリをタれてセンシュンをテラさんとす）と書かれている。

この文言は、李白の詩「古風」（こふう）「其一」の一節で、「古風」は、むかしふうという意味で、李白が六朝風のきらびやかな在来の詩

にあきたりず、骨格のしっかりした剛健な詩風を復活させようと創ったものである。

本学創立100周年記念式のために作曲家藤家湊子氏に委嘱して創られた式典曲名にはこの一節がそのまま使われており、「その光りが千年の後まで照り映えるような、すばらしい詩を生みたいと思う」という意味で、京都大学の気概を込めたという（『京大広報』1997.11号外より）。

長尾前総長も、学生諸氏に在来の有り様に満足することなく、未来に向かって果敢に挑戦して行ってほしいとの願望を込めて書いてくださったと思う。

なお、長尾前総長揮毫作品には、「古風」其一の抜粋を行書で書かれたものもあり、4階教官談話室に掲げている。

<一冊の本シリーズ 1>

心に森を築く一冊の本

フィールド科学教育研究センター教授 田中 克

最近、読書を楽しむ時間も限られているだけに、余り悩まずに1冊の本を推薦できる。「日本汽水紀行—森は海の恋人の世界を尋ねて」(文藝春秋社、2003)である。第52回日本エッセイスト・クラブ賞を受賞した漁師の生命力とロマンに満ちた名著である。

日本は世界的に希に見る豊かな自然に恵まれ、地域の自然に駆け込んだ多様な文化を発達させてきた。ところが20世紀後半の科学技術の急速な進展は、ひとり人類のみが自然を支配できるかのごとく、目の前の生活の利便性と経済効率を優先させてしまった。結果は、修復不可能なほどに自然にダメージを与えることとなった。加えて、地域文化と人々の心にも深い傷を与え、今日の“病める社会”を生み出してしまったように思われる。日本の自然を特徴づける森と海、そしてその連環の再生や“つながり”の価値観の形成を目指した新たな統合学問領域「森里海連環学」創生への思いを深めている。

この「森里海連環学」の原点のひとつが、宮城県気仙沼湾で取り組まれている“森は海の恋人”運動である。それは畠山重篤氏(牡蠣の森を慕う会代表)ら漁師による植林活動として、中学校の国語や社会の教科書にも登場するほど社会的に注目を集め、今では“日本再生のシナリオ”という世論にまで高まりつつある。畠山さんは、文筆分野でも非凡な才能を発揮されているが、本業はまぎれもなくカキの養殖漁師である。カキは川の恵み(栄養塩)によって河口域で大量に発生する植物プランクトンを餌として成長し、その養殖は肥料や薬を一切使わずに自然のままに大きく

育てるものである。カキの生息場所は“汽水域”と呼ばれる川と海の境界域である。気仙沼湾に注ぐ大川源流の室根山に植林を続け、海を見たことのない山の子供達の臨海自然教室を通じて、流域の環境意識を大きく変え、おいしいカキやホタテガイの生産を復活させている。この“森は海の恋人”運動は、人々の“心に森”を築く教育活動でもある。畠山さんの柔軟な発想の原点は、汽水という“境界”に暮らしていることにある。これまでの社会はこの大切な境界を無視し、それらを分断する方向で経済効率を求めてきた。この運動は、縦割り社会の仕組みや型にはまった融通性のない思考を打破する挑戦とも言える。子供の頃に日々汽水域に遊んだ「原体験」と、人と自然へのつきない好奇心が自ずとそのことを可能にしているように見える。

本書は、東京湾・四万十川・有明海など全国津々浦々の汽水域を巡り、地域の気候風土の中に根付いた“汽水文化”を掘り興した紀行文である。自然の織り成す絶妙の調和も、地域独特の文化も、“歴史”のたまものであることを、鋭い自然への観察力と歴史を継承する人々への共感をもとに語りかけている。人間社会にとってはいわば“免疫力”のような存在である地域の自然と文化を再生したいとの熱い思いにあふれている。これから自らの世界を拓き、様々な分野で活躍しようとする学生さん達にとっても、自然と自然や自然と人、そして人と人の多様で絶妙のつながりの大切さを考える素材になるに違いない。

私が所属するフィールド科学教育研究センターは、畠山重篤さんを「社会連携教授」(非常勤)に招へいし、夏休みには気仙沼水山養殖場

において、ポケットセミナー「森は海の恋人の故郷に学ぶ」を開講する。私も“受講生”の一

人として、この「汽水人」から心に森を築く意味を改めて学びたいと願っている。

(たなか まさる)

『附属図書館セレクション』

京都大学の特色ある貴重なコレクションの常設展示

附属図書館は、図書館資料(図書)を約87万冊所蔵しています。二階には、開架図書を約9万冊配置していますが、全体の10%程度に過ぎません。残りの90%の蔵書は、地下書庫に収蔵しています。これらのうち一般の書庫内資料は、OPACなりカード目録で検索して、カウンターに請求し、ご利用いただいておりますが、貴重資料等は日頃日手に取ってご覧いただくことが難しいものです。

この度、これらの書庫内資料から、京都大学の特色を示す貴重な資料で、学外の展示会等でよく利用されているものを、『附属図書館セレクション』として一定期間常設展示することとしました。

京都大学の誇るコレクションの素晴らしさをご鑑賞ください。

【第1回】幕末京都の尊攘堂セレクション

平成17年6月～8月

第1回目は、明治維新後に子爵品川弥二郎が全国の勤皇志士に手紙で呼びかけて収集し、四条高倉通にあった尊攘堂において展示した勤皇志士たちの墨跡などを中心としたコレクション「維新特別資料」(尊攘堂資料)から10点を展示しました。

【第2回】古地図セレクション

平成17年9月～11月

第2回目は、平成8年度大型コレクションで購入した「古地図及び地理学文献コレクション(室賀信夫コレクション)」などから4点を展示しています。



幕末京都の尊攘堂セレクション



古地図セレクション

文学研究科図書館紹介

文学研究科閲覧掛

<蔵書の一冊>

人文科学研究とりわけ文学研究にとって、図書館の史・資料は研究、教育手段の要であり、必要不可欠のものであることはいまさらいうまでもありません。文学研究科図書館は約92万冊の蔵書を有し、また年間2万冊前後の購入をはかっています。この数字は本学ではもちろん全国的にも屈指のものであり、また内容的にも多くの研究者から高い評価を受け、それはこれら史・資料の利用実態にもあらわれているといえます。

蔵書の1冊に「アウグスティヌス『小論集』(1491年)」「哲学 C-357」があります。これには「Anselmus『Opera et tractatus』(1491)」が合冊製本されています。1923(大正12)年12月5日受入、登録番号261655、購入価格75円となっています。



アウグスティヌス『小論集』(1491年)

揺籃期本(通称インキュナブラ)と呼ばれるものは刊行年が1500年(使用暦の関係で1501年4月10日)のものまでをいいますが、この『小論集』はその1冊に当たります。

西洋における活字印刷、本格的な活版印刷はグーテンベルグが1454-55年に刊行した『42

行聖書』を嚆矢とし、その後の約50年間に4万版、2000万部が刊行されたといえます。

日本に将来されたインキュナブラとしては、帝国図書館(現国立国会図書館)に1916(大正5)年購入されたアリストテレス『問題集』が最初のものようですが、この『小論集』も早い時期に購入された1冊といえます。

文学研究科がその創設以来、原典を研究し原典から学ぶという姿勢を貫いてきた、一つの証といえるのではないのでしょうか。

<機械貸出の開始>

当館では、昨年4月1日から機械貸出の本館実施を開始しました。

現在、機械貸出対象となるIDラベル貼付図書は、所蔵図書92万冊の内の4割ですが、並行して行われている遡及入力とIDラベル貼付作業の進行により、徐々に増加しています。利用者は、従来の「手書き方式」と「機械貸出方式」の2つの方法で貸出手続をすることになりましたが、“遡及率が低い、特殊資料が多い”等の理由から当初予想されていた混乱もなく、各々の方法で貸出手続をとるスタイルも定着しつつあります。

1冊ずつ表紙を見てはひっくり返して、IDラベル貼付図書であった時の「当たり」という表情は、利用者閲覧掛員双方に共通で、機械貸出による手続簡略化の便利さを実感しています。これらの結果、文学研究科はもちろん、文学研究科以外の研究科や他大学の利用件数も増加しています。

もう一つの機械貸出導入後の変化は、貸出冊数と期間に対する関心が強くなったことで

しょうか。機械貸出画面は、まさに機械的に延滞や冊数オーバーを表示し、更なる貸出を拒否するのですから、いやでも期限や冊数を守らなくてはならないという認識を深める結果となっています。図書延滞抑止力は、「人間」より情に流されない「機械」にあるようです。

<ILL>

当館は昨年6月からNACSIS-ILLの受付館になりました。現在、NII料金相殺サービス参加館との間で文献複写や現物貸借の依頼と受付を行っています。

平成16年度の文献複写送付件数は1ヶ月平均175件でしたが、最近では200件を超えることも珍しくありません。今後の件数の変化が気になるところです。現物貸借では学外貸出不可としている特殊文庫の希望が多く、依頼に応じられず残念である一方、諸先生方のコレクションの価値を改めて認識しています。

依頼は公費で支払うもののみを扱っていますが、附属図書館で行っている私費によるものを合わせると、文学研究科構成員の依頼は年間2,000件程度になります。

図書館は相互協力がなければその機能を大きく欠くことになります。業務の合理化が求められる今日ですが、処理の簡素化に心がけつつ、サービスは充実していきたいと考えています。



文学研究科図書館閲覧室

<参考調査>

閲覧掛には、他大学からの訪問利用に関連してFAXで送信される所蔵調査をはじめさまざまな質問が寄せられます。他大学からの所蔵調査・事項調査については記録として文書に残るので統計をとっています。

一方、電話やカウンターに寄せられる様々な口頭での質問については、昨年6月から内容毎に数値統計をとり始めました。また質問内容と調査結果を文書として記録し回覧して閲覧掛共通の知識とすることとしました。

この中から一例をご紹介します。学外者から「マルセル・ブルーストの『失われた時を求めて』のタイプ原稿に、後に著者自身が手書きで書き入れたもののコピーがあるか」という質問がありました。正確な回答をするためには当該分野の専門的な知識を要しましたので教員に問い合わせました。その結果、NACSIS-Webcatに登録されていない他大学の詳細な所蔵状況などもわかり、質問者には教員から回答してもらえることになりました。このように、図書館に寄せられる質問の中には専門である教員の協力を必要とするものもあります。

今後は調査データの蓄積など充実させ業務に反映できればと思います。

<図書館ホームページの開設>

文学研究科図書館のホームページを昨年7月1日に開設しました。

図書館の蔵書をインターネットで手軽に検索することが一般的になっている状況から見ると、“遅ればせながら”といえますが、開館日程や利用案内のほか、図書館からのお知らせを随時掲載しています。

当館の所蔵資料の大部分は地下一階と二階の書庫内に保管されています。一般的な図書館では蔵書全体がある一定の法則で分

類され、分類番号順に並べられていますが、当館の場合は29の専修毎にそれぞれ独自の分類があり、違う記号体系で資料が並んでいます。さらに、美学はC書庫、イタリア文学はE書庫、東洋史はF書庫、というように、専修別にAからGまでの7つの書庫に複雑に分かれて配置されています。



地下一階G書庫(考古学) 大型図書

ですから、いきなり書庫に入って資料を探す前に、まずはどの専修の図書かを確認しなければなりません。そこで活躍するのがオンライン目録(OPAC)ですが、残念な

がら、当館の蔵書の約57%はオンライン目録(OPAC)に入力されていません。

特定の文庫や一定期間より前に収集した漢籍など、冊子体の目録を備えているものもあれば、閲覧室と書庫内双方のカード目録を調べてやっと所在が判明する場合もあります。

古いアラビア語資料がヒットするのに、1990年代の和図書が出てこない?? 一筋縄ではいかない資料の検索方法について、窓口では十分に案内しきれないのが実状です。

学内でも最大規模の蔵書を効率よく検索し、スムーズに利用してもらえよう、ホームページでの利用案内を充実させたいと思っています。

「今日は休館日やったっけ?」とがっかりして引き返す学生さんがいなくなったことを期待しつつ、学習・研究に役立つページに育てたいと意気込んでいます。

* 文学研究科図書館ホームページ

<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/lib/index.html>

《文学研究科・文学部 平成16年度利用統計》

1. 貸出(上段:人数,下段:冊数)

文	他学部	合 計	一日平均
11,464	3,214	14,678	68
24,206	6,299	30,505	142

2. 閲覧(上段:人数,下段:冊数)

文	他学部	学 外	合 計	一日平均
7,763	1,906	1,949	11,618	54
21,236	5,803	7,900	34,939	162

3. ILL(件数)

依 頼(公費のみ)		受 付(相殺のみ)	
複 写	貸 借**	複 写**	貸 借**
86	39	1,750	301

4. 参考調査(FAXのみ)

	所蔵調査	事項調査
依 頼(件)	163	
受 付(件)	1,427	56

* 文…文学研究科・文学部

**平成16年6月から平成17年3月の合計

ヨーロッパ図書館紀行 - イギリス・アイルランドから -

京都大学情報学研究科図書室 江上 敏 哲

海外の図書館のうち、イギリス・アイルランドからそのいくつかをご紹介します。

イギリスで最も大きな図書館がBritish Library（大英図書館）です。

1753年からの長い歴史を持つこの図書館には、総計1億5000万点もの本・資料が所蔵されており、しかも毎年300万点（本棚12km分）増えつづけているとのこと。京都大学全学の本・資料が約600万冊ですから、その半分づつが毎年増えていることになります。書写資料31万点、地図400万点、雑誌26万タイトル。マグナ・カルタ、レオナルド・ダ・ヴィンチのノート、グーテンベルグ聖書から、ビートルズの楽譜・音源まで、多種多様な資料が収められています。

1998年に現在の場所St.Pancras地区に建てられた新館では、従来型のリーディング・ルーム—研究目的の利用者のみが入室でき、資料はカウンターで請求して、書庫から取り出されてくるのを待つ—だけでなく、誰でもが自由に入ることのできるパブリック・エリアにたくさんのスペースがあてがわれています。数々のコレクションを展示する常設展示・企画展示のほか、印刷出版の歴史を体験することのできる児童・生徒向けの教育プログラム用展示室や、古典籍のデジタル画像をブラウジングすることのできる端末コーナーなど。定まった展示室だけでなく、館内のあちらこちらに、貴重な資料や模型をディスプレイしたステージやショーケースが並んでいます。これらは研究目的ではない、一般市民のために公開されているものです。もともと大英図書館は大英博物館の一部であり、現在でも、資料を

自由に見ることのできない閉架式を採用しています。そのかわりに、このようなパブリック・エリアを広くとることによって、社会全体への還元という役割を果たそうとしているのです。

さて、このBritish Library新館の隣にあるSt.Pancras駅は、映画『ハリーポッター』のロケにも使用された歴史ある荘厳な建物です。その景観を壊さないための配慮として、British Library新館の前面部分が低く抑えられています。

次に、ロンドン大学のSOAS Library（The School of Oriental and African Studies：東洋アフリカ研究学院）をご紹介します。

ロンドン大学は夏目漱石の留学先でもあったところで、オックスフォード大・ケンブリッジ大にならぶイギリス第3の規模と歴史を誇る大学です。そのカレッジのひとつであるSOASは、アジア・アフリカ・オリエント地域の地域研究（area studies）を専門に行なう機関として、イギリス国内ばかりでなく、世界の中でも中心的地位にあります。ヨーロッパ以外からの留学生が全学生の30%以上を占めているところからも、その“地域研究の雄”としての姿がうかがえます。

そのような大学の図書館ですので、蔵書やサービスも非常に特徴的です。例えば日本研究のためのコレクションでは、日本の市町村で編纂された地方史出版物がとても充実しています。日本ヘフィールドワークへ行く予定のある研究者が、その下準備のために頻繁に利用するそうです。歴史的経緯から、中国やインドの資史料がもっとも

充実しており、場合によっては本国へ出向くよりも、この図書館のほうがずっとバヤク文献を収集できることもあるようです。

それほどに魅力あふれる地域研究資料を求めて、ヨーロッパ各地からたくさんの研究者が訪れます。彼（彼女）ら大学外の利用者に対応するため、さまざまな種類のメンバーシップ制度が用意されています。5日間無料、それ以上は1日単位の課金で、貸出はできないDay Membership。年間一括払いで貸出も可能なBorrowing Membership。企業研究者用の割高なMembership。推薦状で資格が得られる、古典籍資料専用のMembership、等。貴重かつ有用な資料を本当に必要としている人たちのため、その門戸を広く開いている図書館といえるでしょう。

続いては、ロンドンから鉄道で約90分、オックスフォードのオックスフォード大学を訪ねます。

意外に思われるかもしれませんが、イギリスをはじめヨーロッパ各国の図書館・コレクションには、相当数の日本の古典籍が所蔵されています。ここオックスフォード大学のBodleian Japanese Library（ボードリアン図書館附属日本研究図書館）には、イギリスの大学図書館でも最古の日本語書籍である、謡曲「やたてかも」「じねんこじ」「やしま」の3点が所蔵されています。1615年頃に日本で出版された観世流謡曲の嵯峨本で、1629年にRobert Vineyという人が寄贈した、との記録が残っています。この資料は、10数年前に来館した国会図書館の修復家によって修復され、他の古典籍資料とともにエアコンの効いた部屋に保存されています。遠い異国の地にあっても、丁寧に扱われ、恵まれた保存環境のもとで大切に保管されている様には、感慨深いものがあります。

最後に、アイルランド・ダブリンのChester

Beatty Library（チェスター・ビーティー・ライブラリー）をご紹介します。

Chester Beatty Libraryは、Alfred Chester Beatty卿（1875-1968）が収集したアジア・ヨーロッパ・イスラム世界の古典籍や美術品からなるコレクションで、図書館というよりもむしろ美術館・博物館としての性格が強いところです。日本の資料も数多く所蔵されており、特に奈良絵本（室町時代から江戸時代初期のおとぎ話等の本、色あざやかな挿絵が特徴的）については、British Library、New York Public Libraryと並び、海外では屈指のコレクションを有しています。

展示室には、浮世絵の印刷行程や、西洋の装飾文字のレタリング行程を、ビデオで見せるブースがあります。作業している手の動き等がさまざまなアングルからとらえられており、木を削る音やペン先の擦れる音もはっきりと収録されています。経典のブースでは、宗教儀式の映像や読経の音声流れるなど、寺院や教会のような雰囲気再現されています。そのあまりの神聖さと心地よさに、数時間滞在する人も珍しくないそうです。単に資料を見るだけでなく、その資料の背景にある文化や世界観全体を、音や映像で体感できる工夫がなされている、というわけです。

このLibraryはかつて、ダブリン市郊外の、訪れるには多少不便な場所にありました。2000年、ダブリンの中心地であるダブリン城内に移転し、建物も一新。展示室のディスプレイやレイアウトも非常に見やすく、魅力的なものに姿を変えました。その甲斐あってか、かつて6000人程度であった年間来館者数が、移転後は7万人と10倍以上に増え、現在では15万人近くが訪れているとのこと。

（えがみ としのり）



よくある質問と回答(FAQ)

第1回

附属図書館では利用者の皆様とのコミュニケーションの手段の一つとして、Suggestion Boxを1階雑誌閲覧室掲示板下に設置しました。図書館の運営に皆様の意見を取り入れ、よりよい図書館サービスを提供することが目的です。Suggestionに対する回答は図書館としてお答えします。また回答は掲示板に張り出すと共に、ホームページでも公開します。この「静脩」では、よくある質問と回答(FAQ)形式で報告します。

なお、よくある質問と回答(FAQ)はSuggestion Boxだけではなく、「京都大学学生生活白書」や総長と学生とのキャンパスミーティングでのご意見ご発言等、図書館に対して発信されたものをできる限り取り上げてお答えしたいと考えています。

今回は平成15年度「京都大学学生生活白書(別冊Ⅹ自由記述編)」での意見とキャンパスミーティングでの発言から三点に絞ってお答えします。

利用編

Q.(附属)図書館の開館時間を増やしてほしい。

A. 附属図書館では少しずつではありますが、開館日数と開館時間を増やしています。

年 度	開館日数	開 館 時 間
15 年	304日	3,490時間
16 年	313日	3,535時間
17 年	317日	3,563時間(予定)

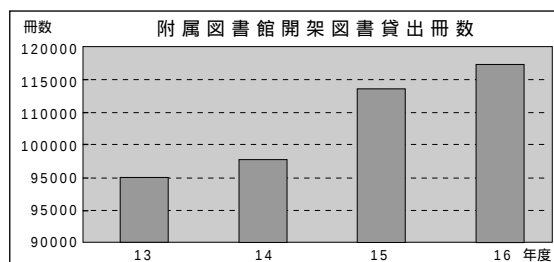
開館するためには人件費、建物の維持費(光熱水道費)等、多くの予算が必要になります。十分でない上に毎年減少する図書館の予算の中から、節約して開館時間を増加させるための費用に充てています。また、計画停電の他サービスの維持及び建物の維持のために閉館しなければならない日もありますが、今後も開館日数と開館時間を増やしていく努力を続けて行きたいと考えています。

なお、部局図書館・室の開館時間については運用主体が異なるため各館にお尋ね下さい。

資料利用編

Q.(附属)図書館で借りられる本の冊数を増やしてほしい。

A. 附属図書館の蔵書は、開架図書が学部生の学習用、書庫内図書が研究用と位置付けています。これにより、開架図書の貸出期間と冊数は2週間、5冊とし、研究が主体の大学院生の場合書庫内図書は1ヶ月、10冊と定められています。また、開架図書は昨年度は延べ約6万5千人に約12万冊を貸出しています。一人でも多くの人たちに利用して頂くためには、現状では開架図書5冊は適切な冊数と考えます。



館内設備編

Q.トイレがきたない。

A. 長年の懸案であったトイレの改修工事を夏期休暇期間中に実施しました。期間中は、騒音その他ご不便をお掛けして申し訳ありませんでした。おかげさまで1・2階部分は全面改修、洋式個室を増やして明るく快適にお使いいただけるようになりました。また、2階には多目的身障者用トイレを増設しています。3・4階は壁面など一部の改修を行いました。

附属図書館の建物は建築後20年以上になり、あちこち不都合が生じていますが、できるところから対応します。

年内には照明器具の付け替えも予定しており、その際には利用者の皆様に再びご不便をお掛けしますが、ご協力をお願い致します。

教員著作寄贈図書一覧

(平成16年7月～平成17年8月)

身 分	寄贈者氏名	寄 贈 図 書 名	出 版 社	出 版 年
名 誉 教 授	朝尾 直弘	朝尾直弘著作集 4, 6, 7, 8	岩波書店	2003-
名 誉 教 授	鈴木 仁美	有機化学実験の事故・危険 事例に学ぶ身の守り方	丸 善	2004
名 誉 教 授	田中 昌人	あの頃の大学生たち	クリエイツかもがわ	2005
経済学研究科	大 西 広	グローバリゼーションから軍事的帝国主義へ (ハングル版)	大月書店	2003
名 誉 教 授	梅棹 忠夫	日本文明 77 の鍵	文藝春秋	2005
名 誉 教 授	小山 直樹	インドサル学紀行	東海大学出版	2005
文 学 研 究 科	川添 信介	水とワイン 西欧13世紀における哲学の諸概念	京都大学学術出版会	2005
教育学研究科	佐藤 卓己	現代伝媒史	北京大学出版社	2004
教育学研究科	東山 紘久	夢分析初歩	ミネルヴァ書房	1993
工 学 研 究 科	岸 田 潔	Contribution of Rock Mechanics to the New Century 1, 2	Millpress	2004
農 学 研 究 科	末原 達郎	人間にとって農業とは何か	世界思想社	2004
人間・環境学研究科	岡田 温司	モランディとその時代	人文書院	2003
人間・環境学研究科	稲垣 直樹	Victor Hugo en Extrême-Orient	Maisonneuve & Larose	2001
人間・環境学研究科	廣野 由美子	批評理論入門	中央公論社	2005
人間・環境学研究科	伊 従 勉	琉球祭祀空間の研究	中央公論美術出版	2005
エネルギー科学研究科	坂 志 朗	Cellulose Acetates: Properties and Applications	Wiley-VCH	2004
国際融合創造センター	富田 直秀	機能設計から生体環境設計へ	丸 善	2005

この一覧は寄贈者著作のみの掲載となっております。上記以外にも多くの図書館資料を附属図書館や部局図書室にご寄贈頂きました。今後とも教育・研究用の蔵書充実のためご寄贈いただきたくよろしくお願いいたします。

蔵書統計

(平成17年3月31日現在)

	部 局	受入冊数			蔵書冊数			入力冊数		
		和書	洋書	計	和書	洋書	計	和書	洋書	計
1	附 属 図 書 館	11,733	2,970	14,703	588,452	273,272	861,724	322,979	93,067	416,046
2	附属図書館宇治分館	431	1,244	1,675	10,129	57,772	67,901	7,866	19,840	27,706
3	文学研究科・文学部	8,765	5,712	14,477	544,932	369,494	914,426	184,874	147,798	332,672
4	教育学研究科・教育学部	1,649	634	2,283	86,247	64,366	150,613	39,593	22,635	62,228
5	法学研究科・法学部	6,226	5,072	11,298	272,630	360,630	633,260	85,193	81,280	166,473
6	経済学研究科・経済学部	5,368	4,548	9,916	241,484	231,728	473,212	121,524	72,645	194,169
7	理学研究科・理学部	625	1,156	1,781	43,680	187,409	231,089	24,748	82,994	107,742
8	医学研究科・医学部	1,491	1,995	3,486	49,388	141,091	190,479	19,028	8,594	27,622
9	医 学 部 保 健 学 科	319	57	376	18,134	3,699	21,833	6,846	968	7,814
10	薬学研究科・薬学部	27	86	113	10,853	33,766	44,619	3,828	5,238	9,066
11	工学研究科・工学部	1,605	1,181	2,786	118,176	186,102	304,278	75,525	48,418	123,943
12	農学研究科・農学部	- 1,460	- 282	- 1,742	143,376	125,394	268,770	35,668	11,693	47,361
13	農学研究科附属農場	0	0	0	164	61	225	6	14	20
14	人間・環境学研究科	7,687	2,844	10,531	344,888	291,324	636,212	134,436	89,463	223,899
15	エネルギー科学研究科	364	500	864	3,912	4,809	8,721	2,538	1,559	4,097
16	アジア・アフリカ地域研究研究科	370	374	744	11,173	71,746	82,919	8,764	77,503	86,267
17	情 報 学 研 究 科	430	198	628	13,067	53,492	66,559	9,772	26,435	36,207
18	地 球 環 境 学 堂	179	153	332	179	153	332	0	0	0
19	生命科学研究科	8	44	52	32	49	81	0	0	0
20	人文科学研究所	5,520	1,042	6,562	458,424	78,081	536,505	91,205	21,573	112,778
21	再生医科学研究所	0	0	0	842	4,539	5,381	85	119	204
22	基礎物理学研究所	88	1,136	1,224	7,956	70,966	78,922	5,756	36,811	42,567
23	ウィルス研究所	0	76	76	328	7,014	7,342	88	1,152	1,240
24	経 済 研 究 所	226	390	616	40,119	35,603	75,722	20,635	26,762	47,397
25	数理解析研究所	98	861	959	6,517	72,466	78,983	6,212	46,285	52,497
26	原子炉実験所	102	144	246	12,386	32,923	45,309	9,653	8,443	18,096
27	霊長類研究所	75	318	393	6,934	15,282	22,216	4,956	4,726	9,682
28	東南アジア研究センター	630	5,927	6,557	24,755	125,373	150,128	17,595	69,292	86,887
29	学術情報メディアセンター	28	22	50	6,014	13,048	19,062	5,100	7,867	12,967
30	放射線生物研究センター	1	4	5	406	1,825	2,231	214	125	339
31	生態学研究センター	3,793	497	4,290	7,127	4,952	12,079	7,180	5,160	12,340
32	放射性同位元素総合センター	39	29	68	39	29	68	39	16	55
33	環境保全センター	0	13	13	618	1,243	1,861	250	1,212	1,462
34	留 学 生 セ ン タ ー	0	0	0	5	0	5	0	0	0
35	高等教育研究開発推進センター	97	13	110	2,404	954	3,358	10	13	23
36	国際融合創造センター	22	7	29	22	7	29	0	0	0
37	フィールド科学教育研究センター	101	151	252	12,540	7,940	20,480	4,481	2,042	6,523
38	大 学 文 書 館	0	0	0	696	0	696	691	0	691
	合 計	56,637	39,116	95,753	3,089,028	2,928,602	6,017,630	1,257,338	1,021,742	2,279,080

(注1) 附属図書館宇治分館は、化学研究所、エネルギー理工学研究所、防災研究所、生存圏研究所の蔵書数等を含めた数

図書館の動き

平成17年		5月17日	京都大学図書館協議会(平成17年度第1回)
1月14日	第1回セキュリティ講習会	20日	国立大学図書館協会理事会(於:東京大)
	システム実務研修	26日	図書系連絡会議
25日	図書系連絡会議	6月10日	第74回近畿地区国公立大学図書館協議会総会(於:滋賀県立大)
	第2回セキュリティ講習会		
28日	平成16年度レファレンス実務研修	14日	大学コンソーシアム京都図書館共同事業検討委員会(平成17年度第1回)
	ハバロフスク極東図書館長来館	21日	大学図書館近畿イニシアティブ第1回運営委員会(於:関西学院大)
2月17日	附属図書館運営委員会(平成16年度第3回)	28日	図書系連絡会議
18日	京都大学図書館協議会(平成16年度第4回)	29日	NII目録システム地域講習会(～1日)
25日	図書系連絡会議	30日	第52回国立大学図書館協会総会(於:名古屋大)
3月9日	大学コンソーシアム京都図書館職員講習会(於:同志社大)	7月8日	2nd Fundamentals-Seminar(無線綴じ本保存修復)
3月14日	3rd Inter-Library Forum(マサチューセツ大 Ms. S.H. Domier)	25日	京都大学図書館協議会幹事会(平成17年度第1回)
17日	図書系連絡会議	27日	第58回国公立大学図書館協力委員会(於:龍谷大)
4月1日	図書館機構銘板除幕式	27日	附属図書館運営委員会(平成17年度第1回)
7日	附属図書館新入生オリエンテーション、留学生オリエンテーション(～11日)	28日	図書系連絡会議
22日	国立大学図書館協会近畿地区協会総会(平成17年度)	8月11日	京都大学オープンキャンパス2005・図書館開放(～12日)
26日	平成17年度図書系初任者研修(～27日、5月11・12日)		
28日	図書系連絡会議		

目次

京都大学図書館機構発足への期待	1
京都大学図書館機構の発足にあたって	2
京都大学図書館機構の発足に寄せて	4
京都大学図書館機構とは	5
京都大学の電子ジャーナル — 図書館機構に望む —	8
長尾前総長揮毫による額をいただく	9
心に森を築く一冊の本	10
附属図書館セレクション	11
文学研究科図書館紹介	12
ヨーロッパ図書館紀行 - イギリス・アイルランドから -	15
よくある質問と回答(FAQ)	17
教員著作寄贈図書一覧	18
蔵書統計	19
図書館の動き	20

編集後記

附属図書館入り口に2段に並んでいる、「京都大学図書館機構」と「京都大学附属図書館」の銘板をみて、機構って何だろう？附属図書館とはどういう関係？と疑問に思われていた方、「静脩」を読んでご理解いただけたでしょうか。ということで今号より「京都大学附属図書館報」を「京都大学図書館機構報」に改めました。京都大学図書館機構に寄せられる、期待も要望もそして苦言も、真摯に受け止め、利用者にお応えする手段として「静脩」がお役に立つことを願っています。(e)

京都大学図書館機構報「静脩」Vol.42 No.1(通巻152号)2005年10月1日発行 編集:「静脩」編集小委員会(責任者:附属図書館事務部長)発行:京都大学図書館機構 京都市左京区吉田本町36-1 Tel.075-753-2613